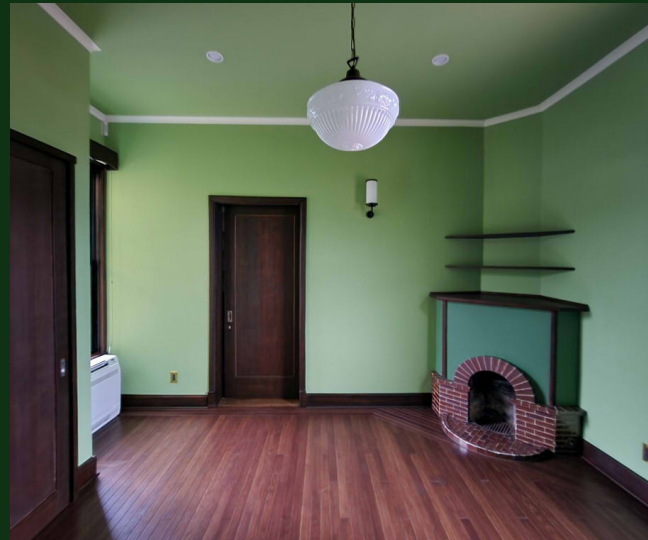


山手 133 番館 再生 の歩み

山手 133 番館は、多くの皆様のご協力により再生することが出来ました。建物再生の記録をお届けします。

山手 133 番館の復元工事は「横浜市歴史を生かしたまちづくり要綱」による保全活用助成金を受けて行っています。



工事前の建物は…

修理前



修理前西外観



修理前玄関



修理前南西外観



解体前の車庫



修理前南外観



修理前 居間暖炉



当初材と思われる
外壁リシンの痕跡



瓦の下地調査



ボイラー室の石炭投入口



基礎換気口の鋳物飾り



修理前リビング



修理前階段



修理前寝室1・サンルーム



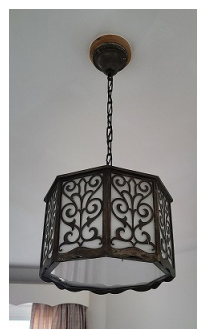
修理前ベイウインドウ



小屋裏で使用されていた
罫子 (がいし)



玄関ホール灯具
(オリジナル)



寝室灯具
(オリジナル)



パントリーに残る
使用人呼び出し盤



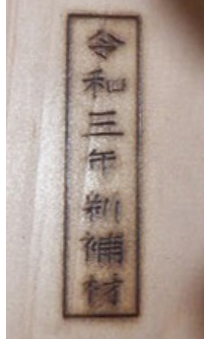
近年まで使用されていたラジエーター

歴史的価値を守りながら
建物を強くする

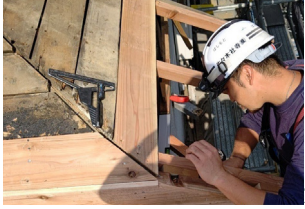
補強工事



ジャッキアップ



追加した部材には
「令和三年新補材」
の焼印を施す



大屋根野地板補修

補強基礎を施工後、建物をジャッキアップし
土台の腐朽土台を交換する

傷んだ土台の入れ替え 補強基礎に土台を緊結



構造用合板を施工



交換した土台は
補強基礎に
緊結する

交換した土台

耐力壁の新設

傷んだ柱の補強



柱脚補強金物



抱き柱と柱脚金物



バンドで
建物に緊結する



煙突根元に板金を施し
雨仕舞を改善

鉄骨による煙突の補強

既存の柱に新規の柱を抱き合わせる

建物の本来の姿を見つける

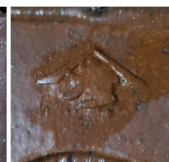
解体 工事



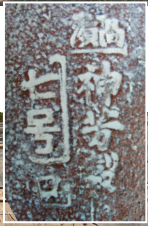
屋根瓦降し



フランス瓦
刻印 (へ彦)



スパニッシュ瓦
刻印 (神芳製)



瓦洗い

既存瓦整理

古瓦を再利用・復原



外壁塗装はがし



吹付塗料調査除去



樋受金物 (当初)



野地板釘穴調査



瓦下地トントン葺き
(薄剥ぎ板葺き)

塗装の下の本来の色



窓上霧除



居間 暖炉塗装はがし



応接間 暖炉塗装はがし



塗装はつり

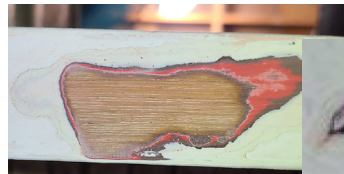


外壁



作業室木製建具

ケレン色彩調査



パントリー建具枠



鉄扉



作業室 上下窓枠 (当初)



作業室 オリジナル上下窓



上下窓
分銅シャフト痕跡



ガラリ戸当初固定金物



上下窓分銅滑車



上下窓滑車



上下窓ゼンマイ金物 (ベイウインドウ)



当初から施されていた鉄骨補強



天井裏に施されていた補強



壁下地杉板斜め張り



内壁下地

建物の下地を調査する



当初フローリング (カーペットをはがした状態)



キッチン 木摺下地壁・勝手口痕跡



木摺下地 痕跡



主屋外壁杉板斜め張り



ベンチ下ラジエーター



使用人室炉の痕跡



使用人室小屋裏



大屋根軒先腐朽



大屋根下地

損傷箇所を調査



作業室基礎解体

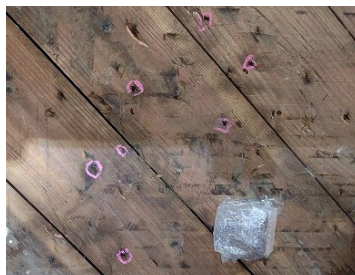


土台・柱脚腐朽

釘穴の痕跡で改修履歴を解明する



釘穴調査 (白丸と赤丸で施工時期が異なる)



内壁板釘穴調査



床板に番号札を付けて解体

昔の姿を取り戻す！

復原工事



軒天換気口復原

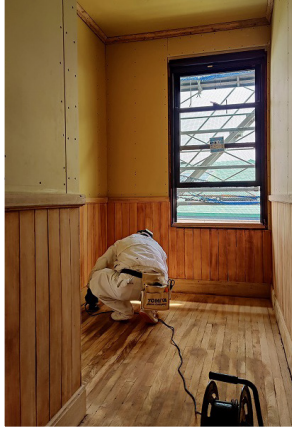
オリジナルの外装の復原



外壁斜め張り繕い復旧



軒廻改修



床板塗装はがし



階段塗装落とし



床根太復旧

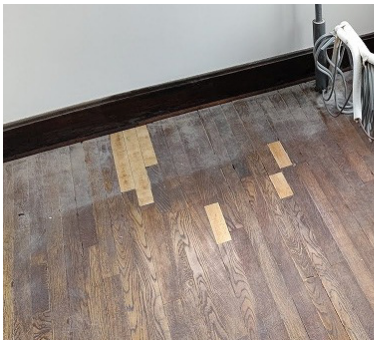
床仕上の復原



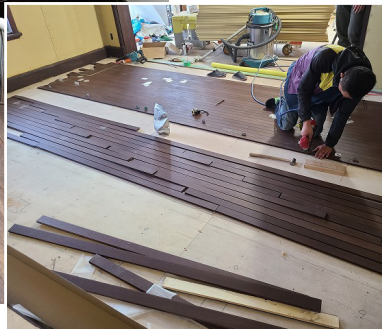
床下地板斜め張



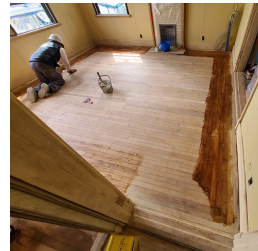
アルミサッシによる
木製建具デザインの復原



フローリング繕い



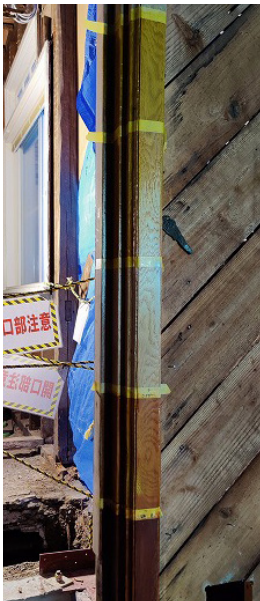
フローリング復原



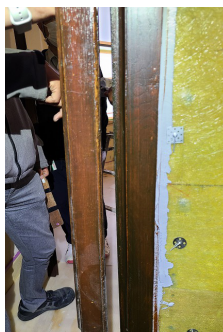
床板塗装



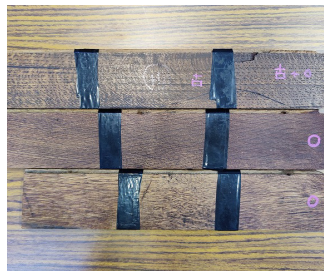
天井廻縁蛇腹材復原



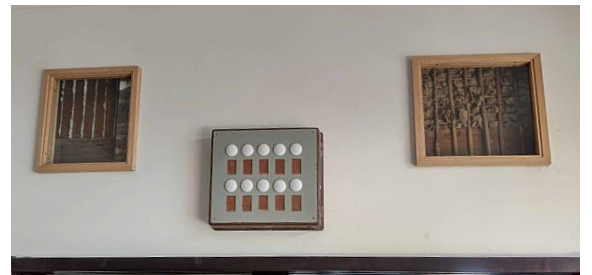
塗装試験



建具枠塗装合わせ



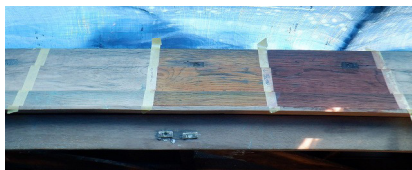
床板古色合わせ



キッチン壁下地展示

外壁サンプル比較

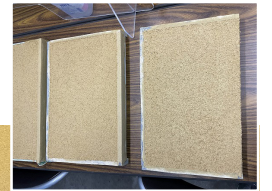
本来の色彩の復原



塗装の曝露試験



外壁復原 色合わせ



配線器具の色彩計画



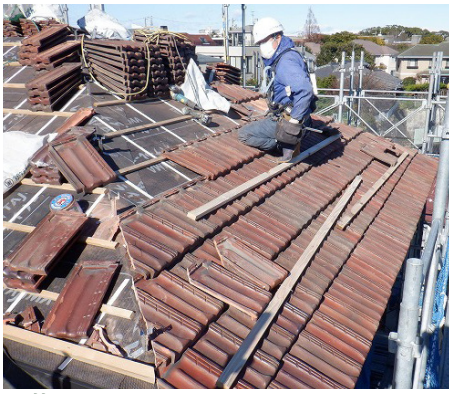
内装材の色彩計画



外装材の色彩計画



外壁仕上リシン掻き落とし



瓦葺

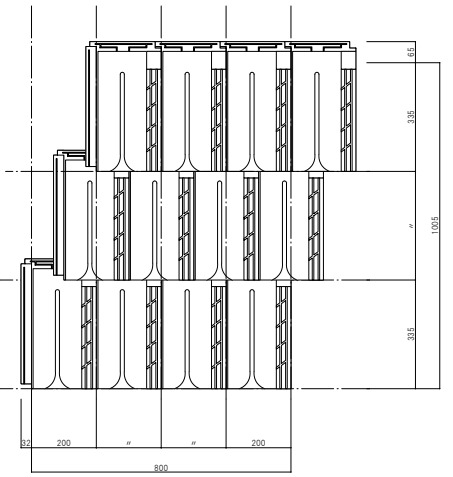
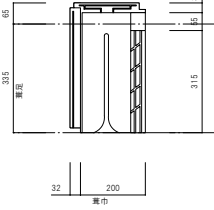


大屋根フランス瓦古瓦復旧

瓦の復原



大屋根フランス瓦



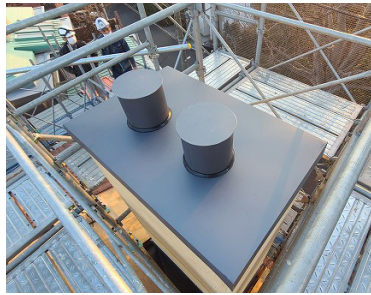
既存かっぽん復旧



使用人室棟の新規製作
復原フランス瓦



緑青促進銅板の軒樋



煙突上部形状復原

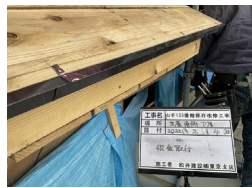


玄関ポーチのスパニッシュ瓦

雨仕舞の改善



作業室屋根内樋 FRP 防水



軒先に唐草を付けて
雨仕舞の向上



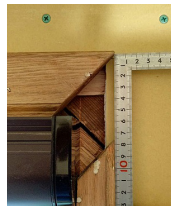
扉の蝶番(マイナスビス留)



キッチン横軸回転窓 (オリジナル)



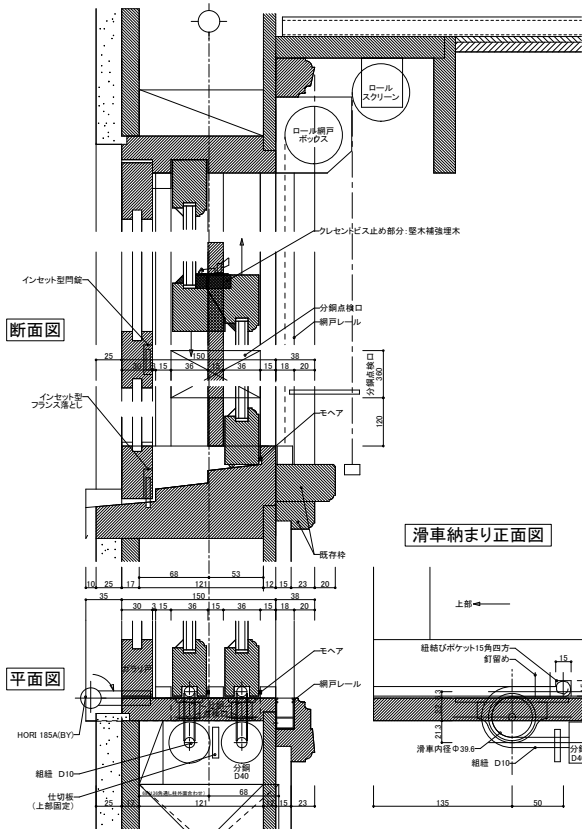
窓台水切の雨仕舞の改善



上下窓額縁加工



カーテンボックス修理



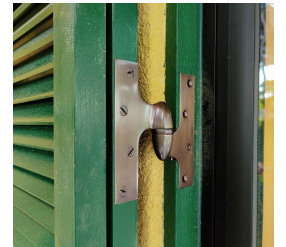
木製上下窓の復原



上下窓 分銅点検口



ドアノブ修理



ガラリ戸蝶番



作業室上下窓(オリジナル)

建物の見どころ

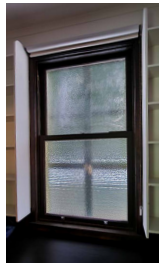
■山手 133 番館の概要

山手地区の南東の高台に位置するこの建物からは、広い眺望が開け、かつては眼前に港と海、遠方には房総半島も臨むことが出来た。敷地内には、明治期に築造されたブラフ積擁壁も残る。

山手 133 番館は、モダニズム建築家アントニン・レーモンドの作品と類似点が見受けられる。主屋はゆとりのある空間を持つアメリカンスパニッシュ様式の洋館。主屋東側に使用人室棟を備え、旧外国人居留地であった横浜山手の外国人の暮らしぶりを今に伝える秀逸な歴史的建造物である。居住者の情報がよく残されており、戦前から戦後にかけて横浜に本社があった、ライジングサン石油株式会社（後の昭和シェル石油株式会社）や米軍との関係性も明らかになっている。横浜の近代都市史の記録の一役を担う希少な建物である。

オリジナルの上下窓

作業室の西面窓は、この建物で唯一オリジナルで全て残る上下窓。分銅と滑車で釣り合いを取る。他の上下窓はこの窓を手本として復原された。



レンガ造りの暖炉

リビングの壁には、アーチのデザインがあらわれた暖炉を備える。暖炉は、応接間と寝室 2 にも備わる。



ラジエーター（暖房）

温水を循環させる様式の暖房。ほぼ全ての部屋の窓下に設置されていた。当初は石炭ボイラーで温水を作っていた。リビングと食堂の出窓ベンチ内にも内蔵されている。



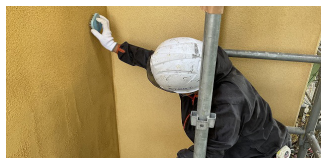
フランス瓦・スパニッシュ瓦

横浜の洋館に多く見られる塩焼（しおやき）瓦。表面には、高温で化学変化した潮が赤褐色のガラス状の被膜を作る。主屋には古瓦を整理して再利用している。



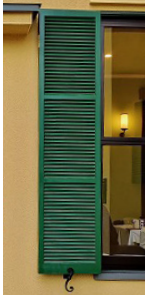
外壁リシン掻き落とし仕上

リシンは石灰、セメント、古砂利が配合された左官材料。昭和初期の洋館には多く使われている。仕上は、生け花用剣山で掻き落す。



ガラリ戸

外壁の窓を日や風から守る目的で備わる目的で備わるガラリ戸。古い 8mm フィルムの映像から色と形状が判明し、復原された。



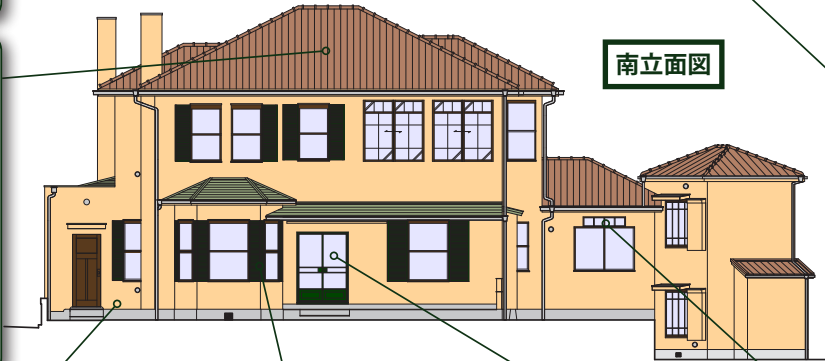
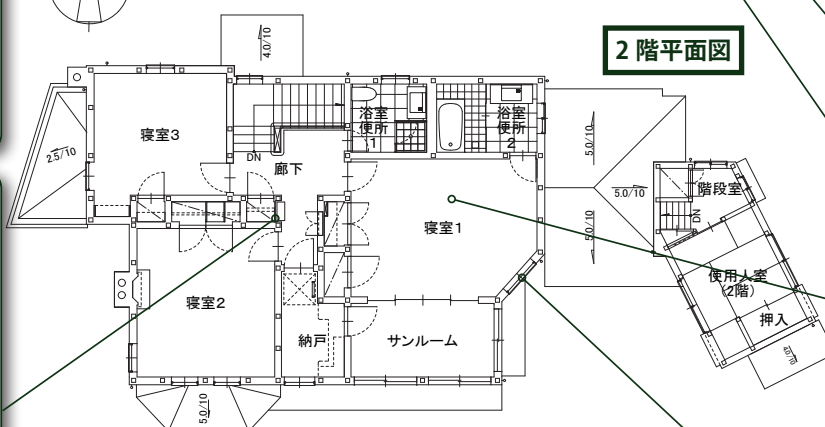
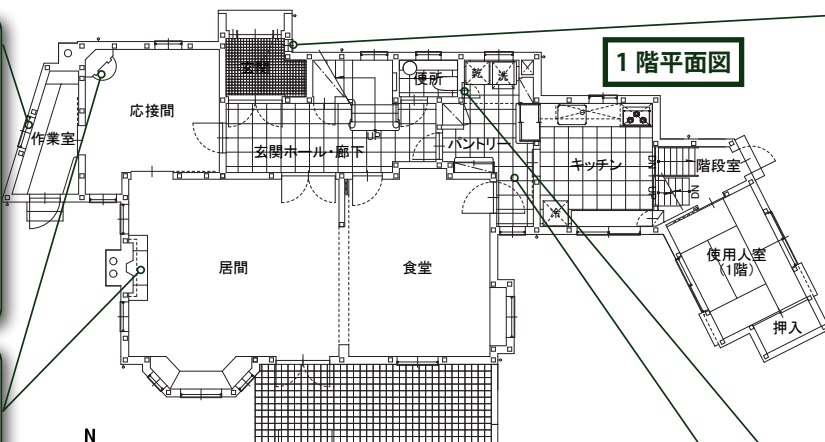
スチールドア

リビングからテラスへ抜ける所に設けられているのは、この建物で唯一のスチール製建具。繊細な意匠でアントニン・レーモンドのデザインにも酷似したものがある。



横軸回転窓

横軸回転窓は、換気によく用いられる。キッチン南壁のものはオリジナル。他に 2 階寝室扉上にも残っている。



玄関のステンドグラス

玄関扉袖壁には、3 枚のステンドグラスが備わる。アメリカンスパニッシュスタイルをオマージュし、今回の工事で新設された。「横浜ステンドグラス工房」の作品。



収納式アイロン台

パントリーの壁内にはアイロン台が収納されている。



パントリー

キッチンと食堂の間にある、配膳室、家事室。洋館の生活スタイルを表す特徴。

床のフローリング

2 階の床には、創建当初のフローリングが残る。材質はナラ（オーク）材で堅く加工しやすく洋館の床に多く用いられた。

海を臨む上下窓

寝室 1 の東面の窓は、海に向かって斜めに配置されている。大型の上下窓。かつては、東京湾越しに房総半島が見えたと考えられる。

